

平成30年度1学期 始業式のことば

新たな年度を開始する今日、大田市を震源とする地震がありました。深夜に大きな揺れを感じました。驚いて飛び起きた人も多かったと思います。島根県は大きな地震が少ないと思っていた私自身も、地震はいつでもどこでも起きることだと改めて認識させられました。今後、1週間は注意が必要だということです。今日また起きるかも知れません。防災訓練で行ったことを思い出し、適切な行動をとり指示に従ってください。深夜に起きる地震に対しては、避難が円滑にできるようリュックサックに最低限必要なものを入れて準備しておく必要があると思います。

話題を新年度始業式に関わる話にもどします。4月当初からスポーツ界では明るい話題で賑わっています。それは、大リーグの大谷翔平選手の活躍です。投手としては2試合目となる今日登板し、12奪三振で2勝目をあげたそうです。先日までは3試合連続となるホームランで賑わっていました。しかし、オープン戦では投打に精彩を欠き、当地で酷評されていました。彼の修正力に感心します。実際、打法を変えたことも報道されていました。それだけでなく多くのことを考え、試行し取り組んだことがあったはずで。

1年間あるいは2年間高校生として学校生活を送った皆さんは、前年度と同じように過ごしてはならないと思います。2年生には1年次と、3年生には2年次と違う過ごし方、学習習慣があるはずで。前年度と同じようになんとか毎日を送るのではなく、前年度を振り返り修正すべきところを修正し、実りある今年度にしてほしいと思います。

次に望むのは、「志を持ち語れるようになってほしい」ということです。昨年度、多くの志望理由書を見ましたが、志が今ひとつ感じられないものもありました。まだ、担任の手の入っていないものもありましたのでそうだったのかも知れません。どんな職業につきたいとか、どの大学がいい、いいのは環境が整っているから・・・などだけでは不十分だと思います。その先にあるもの、職業に就いてから何をを目指すのか、上級学校を卒業してどう社会に関わるのかといった社会に貢献する部分も語ってほしいと思います。

では志はどう育めばよいか。少なくとも2つの事が必要です。1つ目は、自分のできること、得意なこと、力を注げることを把握すること。2つ目は、社会の課題あるいは人々を幸せにすることに目を向けることです。できることと課題が組み合わさって自分のすべきこと、つまりは使命が生まれます。そして使命を果たそうという意志が生まれます。それが志です。「志定まれば、気盛んなり」とは吉田松陰の言ったことばとされます。志が定まっている人は、気力や活力に満ちて事に臨んでいくということです。志を持つ人は、受験に向かうエネルギーも大きいと思います。

最後に希望するのは、「他者尊重の精神」を持ってほしいということです。本年度の重点目標の1つに「他者を尊重する生徒の育成」を掲げました。「自立 協働」は本年度も引き続き本校のスローガンとしますが、そのベースになるものが他者尊重だからです。他者尊重は、もちろん人の意見に反論しないとか黙って人に従うということではありません。人の考えを理解しようとすることです。また、人の立場に身をおいて想像し感じることです。それがあれば、いじめなどは起こらないと思います。また、人間関係も円滑になると思います。人の考えを理解するには知識が、感じるためには感性が必要です。普段の生活の中での経験に加え、知識や感性を育むのが学校生活での学習や諸活動、読書や芸術などです。

今年は本校創立120周年です。また体育科・コースの全国大会の研究授業も本校で開催されます。何かと注目をあびる年になりますが、個々に修正した取組が実る年になるように、普段から「志を持ち語れるようにすること」と「他者尊重の精神」を意識し過ごしてもらいたいと思います。

平成30年4月9日

島根県立大社高等学校
校長 吉田 彰二